

令和6年度 第4回まちづくりふれあい懇談会記録書

- 1 日 時 令和6年8月7日（水）午後6時30分～7時25分（55分）
- 2 場 所 呼人コミュニティセンター 多目的ホール
- 3 出席者 一般出席者 8人
網走市出席者 10人（市長、教育長、企画総務部長、
市民環境部長、建設港湾部長、
生活環境課長、廃棄物処理広域化推進室参事、
都市管理課長、企画調整課長、広報広聴係長）
町連等出席者 4人（会長、副会長、理事、社会福祉協議会職員）
報道 1人
計 23人
- 4 議事進行 理事
- 5 進行記録
18:30 開会
18:31 市長あいさつ
18:33 町連副会長あいさつ
18:36 テーマ(1)ごみの広域処理について
18:45 テーマ(2)公園敷地等を活用した雪置き場について
18:58 テーマ(3)北海道横断自動車道網走線（女満別空港～網走間）の状況について
19:07 その他
19:24 市長あいさつ
19:25 閉会

6 質疑など

【テーマ（１）ごみの広域処理について】

なし

【テーマ（２）公園敷地等を活用した雪置き場について】

参加者	ママさんダンプでここまで持って来るのですか。軽トラなどに積んで捨ててはダメなんですよ。
建設港湾部長	実際の利用は隣接地の方の利用と考えていますので、100mや200m離れた所から持ってくることは現実的ではないと考えています。重機で入れた例もあり、隣接地に影響を及ぼさないか、公園の遊具を傷つけないか、十分確認できた場所については、重機の使用も検討していきたいと思います。
参加者	実際に利用できる人とできない人の境はないということでしょうか。
建設港湾部長	今回、町内会等としており、実際に町内会に加盟している方を対象にする公園もありますし、団体から希望があれば、民有地も含めて、公園に隣接する方に限らず、活用できるところは広げていきたいと考えています。

【テーマ（３）北海道横断自動車道網走線（女満別空港～網走間）の状況について】

なし

【その他】

参加者	コロナ禍で町内会活動が滞ってしまい、呼人でも6町内会の内、2つの町内会が解散しました。町内会活動は厳しい現状にあります。そんな中、地震などの災害があったときは、頼れるのは隣の人。やっぱり町内会で助け合わなければという議論になっています。 また、少子高齢化と言いますが、高齢化は避けられないが、少子化は回避する努力をしなければならないと思っています。ですが、網走にいたくても仕事がない、生活ができないから市外に行ってしまう。18年後どうなるか。農大もわからない。10年後、20年後、どういうビジョンを持っているのか示していただきたいと思っています。なんとかここで働ける職場を作っていく、農大で学んでいるたくさんの学生がここに根付いていただけるようにすることが必要だと思っています。 道路のことは、正直、こんなにお金をかけて良いのかと思っています。作った方がいいが保守にどれだけお金がかかるのか、子どもたちに
-----	---

負の遺産を残して良いのかと思っていますので、道路については何も言えませんでした。

呼人小中学校もいつ廃校になるのか、今回は広域化することですが、残すためになんとかするのではなく、少子化をなんとかすることを全体で考えて、みんなで市を盛り上げていくことが必要だと思っています。

市長

この道路は、40年近くかかり、やっと今、着工となります。まさに命の道路で、厚生病院と日赤をつなぐ時間をどれだけ短縮できるかという大きな課題がありました。冬は何度か吹雪による通行止めがありますが、そんなときに救急車を走らせるのは難しい。

もう一つは、もう少しで自動運転が手に入と思うが、一般道ではまだまだ時間がかかるが、高速道路では実証が始まろうとしています。この道路がないがゆえに、技術革新の恩恵を受けられないことは避けなければならないと思っています。

少子高齢化でバスの運転手さんがいなくなり、働き方も改革しなければならないとなったときに、札幌～網走間は、最後のラストランだけ運転して、あとは自動運転できるようになれば、運転手さんは1人で済みます。道路のインフラとして、この道路は必要だと考えていますので、ご理解くださいますようお願いいたします。また、この地域はインターチェンジが近くに建設予定と伺っていますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

少子高齢化については、おっしゃったとおりで、今76万人の子どもが産まれたということは、20年後、20歳が76万人しかいないのは事実ですので、それに対応した国づくり、まちづくりをしていかなければなりません。先日、商工会議所からご提言いただき、このままでは高校が成り立たなくなる、高校からまっすぐ地域で働いていただく人材は非常に貴重な人材ですので、この地域の高校、大学をいかにして守るかについて、取り組もうとしているところですので、ご協力をいただければと思います。

教育長

呼人小中学校は、小学校3名、中学校15名で20名を切りました。

小規模校については、これまでデメリットして、さまざまな意見の中で学ぶことができないと言われていましたが、今、1人1台端末を持って、例えば、東小や白鳥台小と学校間を結び、修学旅行の計画を立てたり、算数を学んだり、近くの小学校だけでなく糸満市の学校と学ぶこともあります。かつてデメリットとされていましたが、ICT技術の活用で、だんだんなくなってきました。

そんな中、呼人小中学校は来年度から小規模特認校となります。これは呼人の環境で学びたい方は市内どこからでも通学できる制度です。呼人小中学校は自然に恵まれ、市内で唯一エレベーターを持つバリアフリーの校舎でもあります。

秋にオープンスクールを開きますが、前段行われたオープンスクールには8家族がいらっしゃり、評価も良かったと聞いております。この制度を活用して呼人小中学校に通う方がいればと考えております。